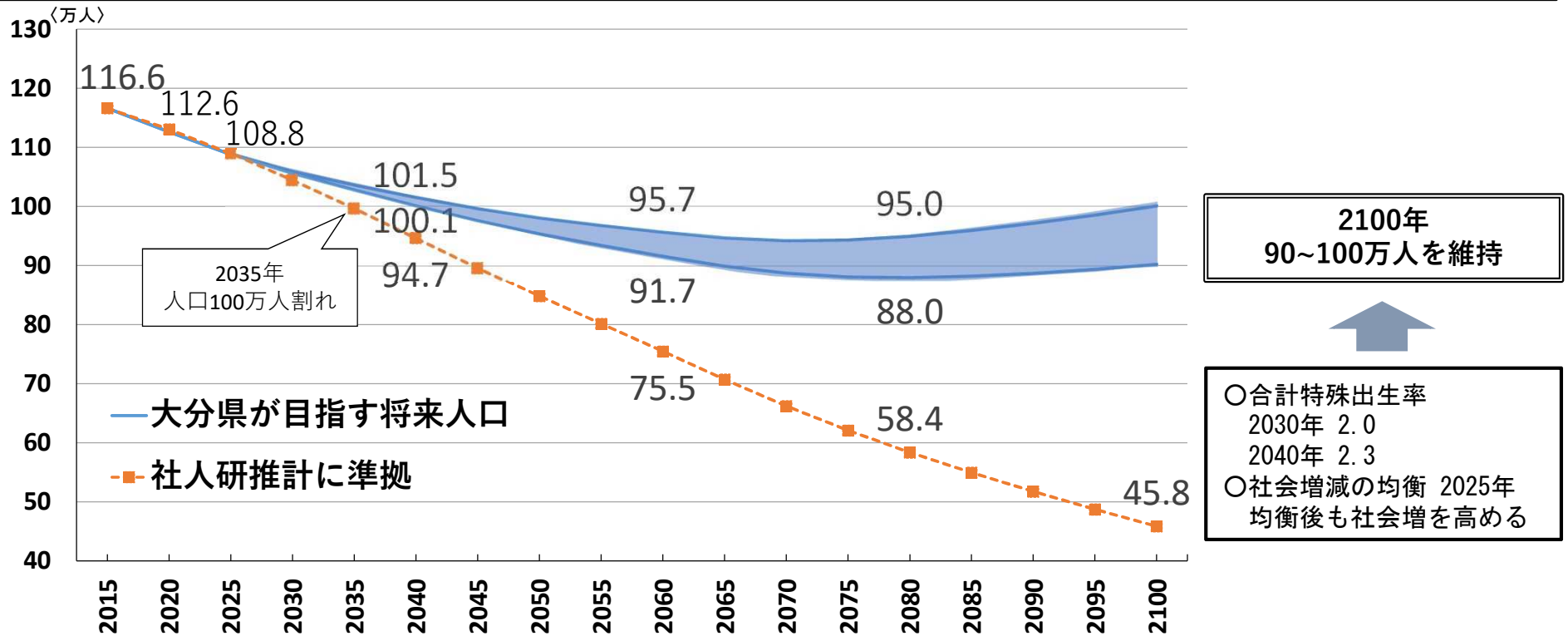


人口の将来推計と2020年の目標・推計

○2020年の目標：1,126,220人（自然増減△6,711人（出生7,882人、死亡14,593人）、社会増減△1,500人）
 ○2020年の推計：1,125,839人（自然増減△6,839人（出生7,649人、死亡14,488人）、社会増減△1,753人）
 →目標を△381人下回る見込み



【2020年の目標・推計】（各年10.1現在）（単位：人）

年	2019（実績）	2020（目標） a	2020（推計） b	（差引） b-a
総人口	1,134,431	1,126,220	1,125,839	△ 381
増減計	△ 8,512	△ 8,211	△ 8,592	△ 381
自然増減	△ 6,711	△ 6,711	△ 6,839	△ 128
出生	7,882	7,882	7,649	△ 233
死亡	△ 14,593	△ 14,593	△ 14,488	105
社会増減	△ 1,801	△ 1,500	△ 1,753	△ 253

【2025年の目標】

○出生数 9,000人
 合計特殊出生率 1.83
 ○社会増減の均衡

自然動態のポイント

○10月1日時点の目標△6,711人（出生7,882人、死亡14,593人）に対し、推計は△6,839人（出生7,649人、死亡14,488人）で△128人未達（出生△233人、死亡+105人）

【増加要因】

- ・ 昨年5月の令和婚の増加を背景に、2020年1月～4月の間で出生数が増加（前年比 +81人、3.2%）

【減少要因】

- ・ 平均初婚年齢が上昇（男性：2018年 30.4歳→2019年 30.7歳 女性：2018年 29.0歳→2019年 29.4歳）
- ・ 第1子出生時の母親年齢が上昇（2017年 29.9歳→2018年 30.1歳）
→合計特殊出生率が低下（2018年 1.59→2019年 1.53）

○10月以降は、コロナによる妊娠・不妊治療控えや結婚（挙式）の先送りが、自然動態にマイナスの影響
来年度以降は、コロナの影響は相殺されると見込むものの、合計特殊出生率の低下傾向が続けば、自然動態にマイナスの影響

社会動態のポイント

○10月1日時点の目標△1,500人に対し、推計は△1,753人で△253人未達

【増加要因】

- ・ 高水準の企業誘致（2017年度 55件、2018年度 59件、2019年度 51件）により、雇用者数が増加

【減少要因】

- ・ コロナの影響による入国禁止措置に伴い外国人転入者が減少
（2020年4月～6月の転入者 374人（前年同期比△1,046人）、転出者 536人（△172人）、転入出差引 △162人（△874人））
なお、4月に減少した外国人留学生は、秋入学までにほぼ回復する見込み
- ・ 工場を閉鎖する企業の従業員が、県外に転出する見込み

○10月以降は、コロナによる企業倒産や事業縮小、採用控えがマイナスに影響
一方、コロナ不安から、就職先を県外から県内に志望変更する高校生あり
来年度以降は、コロナによるサプライチェーンの国内回帰、マインドの転換（大都市圏の人口集中のリスク回避、リモートワークなど働き方の多様化）、APUの新学部創設が社会動態にプラスの影響